

- 36.それともかれらが、天と地を創造したのか。いや、かれらにはしっかりした信仰がないのである。
- 37.それともかれらは、あなたの主の様々な宝物を持っているのか。または（事物の）管理者なのか。
- 38.それともかれらには梯子があつて、それで（天に登り、その秘密を）聞くことが出来るのか。それなら聞いたという者に、明確な証拠を持って来させるがよい。
- 39.それともあなたがたには息子があつて、かれには娘がある（だけ）というのか。
- 40.それともあなたが、かれらに報酬を求め、それでかれらは負債の重荷を負っているというのか。
- 41.それとも幽玄界のことがすっかり分つていて、それを書き留めているというのか。
- 42.それとも（あなたに対して）策を巡らす積もりか。だが背信者たちこそ、策謀にかかるであろう。
- 43.それともかれらは、アッラー以外に神があるというのか。アッラーに讃えあれ、かれは配するもの（邪神）の上にと高くおられる。
- 44.仮令天の一角が（かれらの上に）落ちるのを見ても、かれらは、「積・重なった雲です。」と言うであろう。
- 45.かれらは、（恐れのために）そこに昏倒する（審判の）日に会うまで、放って置け。
- 46.その日かれらの策謀は、何の益もなく、結局かれらは助けられないであろう。
- 47.本当に不義な行いの者には、この外にも懲罰がある。だが、かれらの多くは気付かない。
- 48.それで主の裁きを耐え忍んで待て。本当にわれはあなたがたを見守っている。そしてあなたが立ち上がる時は、主を讃えなさい。
- 49.夜中に、また星々が退く時にも、かれを讃えなさい。

SURA 53.星章 [アン・ナジュム]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.沈・ゆく星にかけて（誓う）。
- 2.あなたがたの同僚は、迷っているのではなく、また間違っているのでもない。
- 3.また（自分の）望むことを言っているのでもない。
- 4.それはかれに啓示された、御告げに外ならない。
- 5.ならびない偉力の持主が、かれに教えたのは、
- 6.優れた知力の持主である。真っ直ぐに立って、

- 7.かれは地平の最も高い所に現われた。
- 8.それから降りて来て、近付いた。
- 9.凡そ弓2つ、いやそれよりも近い距離であったか。た。
- 10.そしてしもべ（ムハンマド）に、かれの啓示を告げた。
- 11.心は自分が見たことを偽らない。
- 12.かれの見たことに就いて、あなたがたはかれと論争するのか。
- 13.本当にかれ（ムハンマド）は、再度の降下においても、かれ（ジブリール）を見たのである。
- 14.（誰も越せない）涯にある、スイドラ木の傍で。
- 15.そのそばに終の住まいの樂園がある。
- 16.覆うものがスイドラ木をこんもりと覆う時。
- 17.（かれの）視線は吸い寄せられ、また（不躰に）度を過ぎすこともない。
- 18.かれは確かに、主の最大の印を見たのである。
- 19.あなたがたは、アッラートとウッザーを（何であると）考えるか。
- 20.それから第3番目のマナートを。
- 21.あなたがたには男子があり、かれには女子があるというのか。
- 22.それでは、本当に不当な分け方であろう。
- 23.それらは、あなたがたや祖先たちが名付けた（只の）名前に過ぎない。アッラーは（どんな）権威をも、それらに下されなかった。かれら（不信心者）は、虚しい臆測や私慾に従っているに過ぎない。既に主からの導きが、かれらに来ているのに。
- 24.凡そ人間には、欲しいものは何でも手にはいるのか。
- 25.いや、来世も現世も、アッラーの有である。
- 26.天に如何に天使がいても、アッラーが望まれ、その御喜びにあずかる者にたいする御許しがでた後でなければ、かれら（天使）の執り成しは何の役にも立たない。
- 27.本当に来世を信じない者は、天使に女性の名を付けたりする。
- 28.かれらは（何の）知識もなく、臆測に従うだけである。だが真理に対しては、臆測など何も役立つ訳はない。
- 29.それであなたはわれの訓戒に背を向ける者、またこの世の生活しか望まない者から遠ざかれ。

- 30.この程度（現世の生活）が、かれらの知識の届く限界である。本当に主は、道から迷っている者を最もよく知っておられる。またかれは、導きを受ける者を最もよく知っておられる。
- 31.本当に天にあり地にある凡てのものは、アッラーの有である。だから悪行の徒には相応しい報いを与えられ、また善行の徒には最善のもので報われる。
- 32.小さい誤ちは別として、大罪や破廉恥な行為を避ける者には、主の容赦は本当に広大である。かれは大地から創り出された時のあなたがたに就いて、また、あなたがたが母の胎内に潜んでいた時のあなたがたに就いて、最もよく知っておられる。だから、あなたがたは自分で清浄ぶつてはならない。かれは主を畏れる者を最もよく知っておられる。
- 33.あなたは（真理から）背き去る者を見たか。
- 34.僅かに施しをしては、（物借・して）止める。
- 35.そういう者に幽玄界の知識があつて、それで何でも見えるというのか。
- 36.それとも、ムーサーの書にあることが、告げられたことはないのか。
- 37.また（約束を）完全に果たしたイブラーヒームのことも。
- 38.重荷を負う者は、他人の重荷を負うことは出来ない。
- 39.人間は、その努力したもの以外、何も得ることは出来ない。
- 40.その努力（の成果）は、やがて認められるであろう。
- 41.やがて報奨は、十分に報いられる。
- 42.本当にあなたの主にこそ、帰着所はある。
- 43.かれこそは、笑わせ泣かせる御方。
- 44.また死なせ、生かす御方である。
- 45.本当にかれは、男と女の組・合わせを創られた。
- 46.それも精液を吹き込むことで。
- 47.また2度目の創造（の復活）も、かれの御心のままである。
- 48.かれこそは富ませ、また満ち足りさせる御方。
- 49.また狼星（シリウス）の主もこの御方。
- 50.かれは昔アード（の民）を滅ぼし。
- 51.またサムードも一人残さず滅ぼされた。
- 52.それ以前にヌーフの民も。本当にかれらは、酷い不義、不正の輩であった。
- 53.また（ソドムとゴモラのように）転覆された諸都市。

- 54.そしてかれはそれを覆い去られた。
- 55.（人びとよ、）一体主のどの御恵・に、あなたがたは異論を抱くのか。
- 56.これは、昔の警告者たちと同じ一人の警告者である。
- 57.（審判の時は）近くに迫って来ている。
- 58.それはアッラーの外何者も明らかにし得えない。
- 59.あなたがたはこの話を聞いて驚いているのか。
- 60.嘲笑はしても、泣かないのか。
- 61.あなたがたは、自惚の中で時を過ごすのか。
- 62.一途にアッラーにサジダし、（かれに）仕えなさい。〔サンダ〕

SURA 54.月章〔アル・カマル〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.時は近づき、月は微塵に裂けた。
- 2.かれらは仮令印を見ても、背き去つて、「これは相変らずの魔術だ。」と言うであろう。
- 3.かれらは（訓戒を）虚偽であるとし、自分の欲望に従ってきた。だが一切の事には、定められた結末がある。
- 4.これまで、様々な消息は、既に(宙?)され、それで充分自制出来たはず。
- 5.それはめざましい英知であった。だが警告は役立たなかった。
- 6.だからあなたは、かれらから遠ざかれ。召集者が嫌われるところへ呼び出す日。
- 7.かれらは目を伏せて、丁度バツタが散らばるように墓場から出て来て、
- 8.召集者の方に急ぐ。不信心者たちは言う。「これは大難の日です。」
- 9.かれら以前に、ヌーフの民も（その預言者を）虚偽とし、わがしもべを嘘付き呼ばわりし、「気違いです。」と言って追放した。
- 10.それでかれは主に、「わたしは、本当に力尽きました。どうか御助け下さい。」と祈った。
- 11.それでわれは、天の諸門を開き水を注ぎ降らせた。
- 12.また大地に諸泉を噴出させ、水は合わさり、かねての神命によること（洪水）が起きた。
- 13.しかしわれは板と釘で造ったもの（方舟）にかれを乗せてやった。
- 14.わが見守る中でそれは走った。これが（皆から）退けられたあの者への報いである。
- 15.われはこれを一つの印として残した。さて誰か悟ろ者はあるか。